

古墳時代の神奈川

～古墳・埴輪・副葬品からみた神奈川の歴史と文化～



当麻谷原12号墳(復元古墳)*マップルHP

- ◆第1回 11月 6日(木) 午後2時～4時
講義:相模原の古墳と遺跡～古墳時代の神奈川～
- ◆第2回 11月13日(木) 午後2時～4時
講義:埴輪からみた古墳時代の儀礼と習慣
- ◆第3回 11月27日(木) 午後2時～4時
講義:副葬品からみた古墳時代の特性と構造



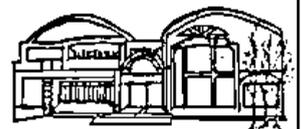
柏木 善治氏
(公財)かながわ考古学財団
常務理事(兼)事務局長
総合研究大学院大学
2013年3月修了 博士(文学)



■募集要領

- 9月25日(木)午前9時より
窓口または電話にて受付開始
- 場所:大野台公民館 大会議室
- 駐車場は台数制限あり
- 受講料:無料
- 募集人数:50名(先着順)定員になるまで
- 申込・問合せ:042-755-6000
- 主催:公民館文化部

木もれびの森 大野台公民館

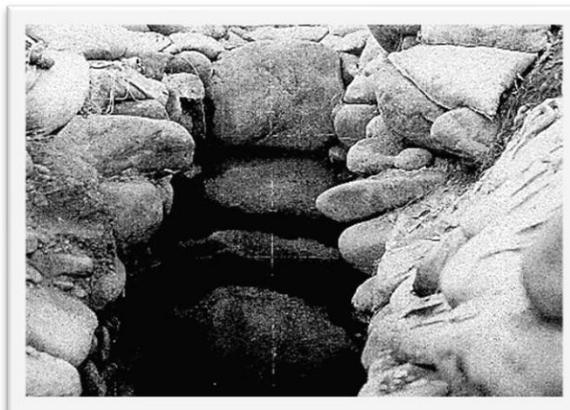


講座内容

第1回 11/6(木)

相模原の古墳と遺跡 ～古墳時代の神奈川～

古墳時代とは西暦 350 年～700 年頃までの、おおよそ 400 年間にわたる時代の名称です。この時代に全国では約 16 万基の古墳が造られたと言われています。古墳の墳丘形状や、そこに立て並べられた埴輪、内部に造られた埋葬施設と、埋葬に際して使用された副葬品などを確認することで、当時の社会状況などもみえてきます。相模原市にある東原古墳、谷原古墳群、有鹿谷祭祀遺跡などを紹介しながら、他地域の古墳もみて、古墳時代の神奈川はどのような社会であったのかということ、写真も多用しながら解説していきます。



東原古墳の横穴式石室(相模原市)

* 出典:保存整備事業報告書 1990 年



第2回 11/13(木)

埴輪からみた古墳時代の 儀礼と慣習



登山1号墳の埴輪(厚木市)

* 出典:厚木観光ナビ HP

古墳には埴輪が立て並べられることがあります。埴輪は、筒状の円筒埴輪から始まり、徐々に建物や鳥が追加され、その後人物なども多用されるようになって、古墳時代の後期には埴輪群像がみられるようになります。神奈川県では相模川以東は埴輪が多く出土していますが、相模川以西ではあまり発見されていません。そのように地域による違いがあるのは何が原因なのでしょう。また、埴輪を立て並べることで、どういった効果を求めたのでしょうか。埴輪が使用される状況を確認しながら紐解いていきます。



第3回 11/27(木)

副葬品からみた古墳時代の特性と構造

〈ヒエラルキー〉

古墳の被葬者には器物が手向けられますが、それらのことを副葬品と言います。古墳からは土器も出土しますが、儀礼などの場面で使用された製品は副葬品と区別します。副葬品として大刀や弓矢、ガラス玉などの装身具が納められますが、なかには鍍金をした煌びやかな大刀や馬具(馬を飾り立てる器物)などが出土することもあります。そのような格差の違いがなぜあるのでしょうか。豪華な副葬品が納められた一握りの階層は、どのような人たちだったのでしょうか。神奈川県や、他地域の古墳から出土した副葬品もみながら考えていきます。



黄金塚古墳の環頭大刀柄頭(南足柄市)

* 出典:平塚市博物館 2001 年展示図録